

新 青年農業士が認定されました



土橋 佳孝氏(階上町)

ながいも単一経営で、緑肥による土づくりに取り組んでいます。

祖父の代から栽培を続けている「土橋いも」に加えて、「庄司系」の種いもを導入するなど、リスク分散を図りながら品種特性に合わせた栽培方法を実践しています。



水合 達徳氏(階上町)

水稻、長ねぎ、ブロッコリー、寒締めほうれんそうの複合経営を行っています。長ねぎ、ブロッコリーでは緩効性肥料を活用し、水稻では密播疎植栽培を導入するなど、省力・低コスト化に取り組んでいます。

また、2年前から米のネット販売を開始し、食べ比べセットや無洗米など顧客ニーズに合わせた販売を実践しています。



向井 成男氏(階上町)

ながいも単一経営で、緑肥による土づくりに取り組んでいるほか、種いも生産の低コスト化に向けて、2年子の生産や成いも切片など、複数の方法に取り組み、試行錯誤しながら、栽培しています。

また、農協青年部では、管内小学校でバケツ稲の指導を行うなど食育に取り組んでいます。



長根 透氏(新郷村)

就農当初は主食用米だけでしたが、飼料用米やながいもを導入し、複合経営を行っています。

飼料用米は、低コスト化に向けて飼料用米専用品種を活用した疎植栽培を行っています。

また、ながいも栽培では、緑肥と休耕を組み合わせた輪作を行っており、収量・品質の向上に取り組んでいます。

「あおもり土づくりの匠」が認定されました

県では、健康な土づくりの指導的な役割を担う耕種農業者や高品質な堆肥を生産・供給している畜産農業者を「あおもり土づくりの匠」として認定しています。

この度、五戸町の(有)東北グローイング青森支社の高橋利昭氏が「あおもり土づくりの匠」に認定されました。

(有)東北グローイングは五戸町を中心に、露地野菜農家が望む高品質の堆肥生産と堆肥散布まで請け負うことが評価されました。管内の認定者は計11名、うち畜産経営は2名となりました。



▲ (有)東北グローイング青森支社の高橋利昭氏

みどりの通信

令和4年度第2号

発行日：令和5年3月8日

〈三八地域県民局地域農林水産部〉

・農業普及振興室

〒039-1101 八戸市大字尻内町字鴨田7番地

TEL：0178-27-5111 (代表)

TEL：0178-27-4444 (直通)

FAX：0178-27-3323

・農業普及振興室分室

〒039-0134 三戸町同心町字同心町平54-7

TEL：0179-23-3264

FAX：0179-23-3274



さんばちファーマーズマルシェを開催しました！



令和3年度から実施している「三八新規就農者支援事業」において、新規就農者同士の連携のほか、異業種や消費者との交流を促すため、新規就農者等が自ら企画・運営する販売イベントの開催を支援しました。

具体的には、新規就農者や若手農業者5名が集まって「さんばちファーマーズマルシェ実行委員会」を設置し、イベントのコンセプトや会場レイアウトの検討、出店者説明会や商品陳列手法研修会の開催、名久井農業高校や農機具メーカーとの連携などに取り組みました。

これらの取組の結果、農業者13名・団体、飲食店6店舗、展示1校・1社が参加し、令和4年10月2日(日)に八戸まちなか広場マチニワで「さんばちファーマーズマルシェ」を開催し、1,500名の消費者(実行委員会調べ)が来場しました。

現在は、令和5年7月の開催に向けて準備を進めているところです。



▲会場の様子



▲新規就農者の販売状況



▲トークイベント



▲トラクターの展示

令和4年度にんにくの省力・軽労化に関する研修会を開催しました

令和5年2月13日（月）に「にんにくの省力・軽労化に関する研修会」を八戸プラザホテルで開催し、関係機関を含め53名が参加しました。講師に（地独）野菜研究所 栽培部の庭田研究専門員とヤンマーアグリジャパン（株）アグリサポート部の山端部長をお招きし、省力機械化体系、省力機械に関する情報提供等が行われたほか、にんにくの労働力実態調査の結果や軽労化事例、機械導入に活用できる補助事業などについて説明しました。

研修会終了後に実施したアンケートでは、回答者の80%以上が「参考となる研修だった」という結果でした。

今回の研修会をきっかけに、にんにくの作業に省力・軽労化技術が導入されることを期待しています。



▲研修会の様子

さんのへ農業小学校を支援しました

「さんのへ農業小学校」は、平成23年度に三八地域県民局の重点事業としてスタートしました。子どもたちが年間を通して農作業を体験できる食農教育モデルとして三戸町に開校され、その後、三戸町が事業を引継ぎ、今年度で第12期目となりました。

8、9月の授業は悪天候で中止となりましたが、田植え、さつまいもの植付けと掘り取り、りんごの収穫などを学ぶ授業で、先生を務める農家とともに支援しました。

1月21日（火）の卒業式では、児童19名が各自の思い出や心に残った授業を発表しました。さつまいもの掘り取りと販売体験が楽しかったと話す児童が多く、特に販売体験は、自分たちが手がけた農産物が瞬間に売れていく様子が印象に残ったようです。

今後も、子どもたちの笑顔と農業への理解醸成のため、引き続き支援していきます。



▲さつまいもの掘り取り



▲販売体験を行う児童



その他、管内の農業・農村の動きや農業普及振興室の活動状況はこちらをご覧ください！

<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kenmin/sa-nosui/>

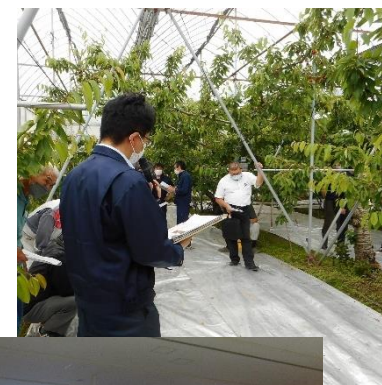
ジュノハートの出荷量確保に向けて

令和4年産おうとうは、開花期の低温・強風により結実がやや少なく、さらに5月末～6月上旬の降雨等で裂果の発生が近年になく多い状況でした。

そこで、ジュノハートの出荷量確保に向けて、生産・出荷現地検討会（6月17日）の開催や生産情報の発行等により、裂果の発生状況・対策の共有、適期収穫と厳選出荷を呼びかけた結果、八戸農協や南部市場の出荷量は前年を上回りました。

また、近年、おうとうは凍霜害や裂果の被害を受けていることから、高品質安定生産に向けて、2月に「ジュノハート生産・出荷研修会」を開催しました。

▶ 現地検討会



▶ 生産・出荷研修会

農福連携現地検討会を開催しました

11月15日（月）、五戸町の豊川真寿氏のながいもほ場を会場に、三八地域農福連携現地検討会を開催しました。当日は、八戸市の福祉事業所の支援員1名と利用者3名による、ながいも（種いも）の収穫作業の様子を見学した後、八戸農協が今年度から実施している「チャレンジ農福」の取組を紹介しながら、三八地域における農福連携の取組について情報交換を行いました。参加した農業者からは、来年自分のほ場でも利用してみたいといった声が聞かれるなど、今後一層の取組拡大が期待されます。

今後も、関係機関と連携しながら農福連携に対する農業者の理解促進とその取組について、引き続き支援していきます。



▶ 作業の様子を見学

田子町の株式会社たからが令和4年度「青森県攻めの農林水産業賞」を受賞

県では、「攻め」の姿勢で新たな試みや創意工夫を凝らし、収益力を高め地域の活性化などに貢献している経営体の取組を「青森県攻めの農林水産業賞」として表彰しています。今年度、田子町の株式会社たから（寶田喜美男代表取締役社長）が収益力強化部門で奨励賞を受賞しました。

たからでは、高品質なにんにくの生産と黒にんにくなどの加工品の製造・販売により高い収益性を確保するとともに、東南アジアへの輸出等、海外の販路拡大に取り組むなど、特産にんにくの6次産業化で売上額を拡大し、地域農業をけん引していることが高く評価されました。



▲寶田喜美男 代表取締役社長（中央）